

**漢字の絵本の文では、送りがなが基準と違っているものがあるがなぜか。**

国語審議会が決めた“送りがなのつけ方”は、音訓と同様、考え方の基本が誤っていると判断していますので、私は必ずしもこれに従わないわけです。

例えば、“行”という字について言いますと“行って”という送りがなでは、“おこなって”とも“いって”とも読めるので、どちらか迷う。それで、前者は“行なって”としてこれを区別する」と言うのがその言い分です。しかし、「送りがなでその読み方を区別する」という考え方が間違っているのです。

“実行・進行”この二つの言葉を比べてみて下さい。送りがなくても、前者は“おこなう”ことであり後者は“いく”ことであることは明らかです。“進行”を“進んでおこなう”ことだと解する人などいないはずですよ。

と同様に、“……へ行って……を行って”とあったら、これまた読み誤ったり迷ったりすることはありません。つまり、漢字は単独だといく通りにも読めるものでも、熟語や文章になれば、その読み方は自然と一

つに決って、迷うことは少しもありません。

だから、これを送りがなによって区別しようというのは、大変な考え違いであって、かえって送りがなのつけ方を複雑にし、困難にするだけです。

それに、言葉や文字の用法は長い歴史を通して磨き抜かれてきたものですから、審議会などが規制すべきものではないのです。それは審議会の思い上がりと言うものです。

そういうわけで審議会の決めた基準などには従いません。それ以前のわが国の先祖様が示して下さった送りがな(この方が審議会のものよりずっと合理的で美しい)に従っているのです(今の審議会は伝統を重んずるよう、次第に変わりつつあります)。